

# あごら

**MINI**

〈70号〉

1983年2月10日発行 ¥200 千40

## 今月のなかみ

〈編集担当・あごら京都〉

表紙のことは	高齡化社会って何だろう	作原 千恵	1
座談会	今、男と女は	阿部ひろ江／石川美智子	2
速報	優生保護法改「正」案をめぐって	稲垣良代／木野村啓子／竹沢悦子	7
提案	国際フェミニスト交流・準備会を	塚崎美和子／平田ひと江	7
あごらのあごら	27号に反響続々		7
お知らせ	女のついでい・女の講座		8

- 何でも言える ●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉＝AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

昭和五年生まれの専業主婦である私も、なんとか辛うじて「あごら京都」とのかかわりを保ってきて、自分なりの思考が育ってきたのでしょいか。個の確立や一人立ちへのあがきは、古いへのあがきと重なって、最近急速に変わってまいりました。

新たな悩み、未知の高齡化社会への不安が日々高まっていく矢先、おばさんと呼んで三十七年間同居してきた六十七歳の老女が、日増しにつるボケに加えて、昨年十一月七日の朝突如、体の自由がきかなくなったのです。

おもしろした下着が周囲に散乱し、裸のまま白い髪をふり乱して寝床の上を這いずり回る有様に私は絶句し、体がコチコチになったまま、しばらく立ちつくしておりました。その現実、まだ少しは先のつもり自分の老いをあれこれ思いめぐらしたものは、あまりにもかけ離れた次元の出来事でした。

とりあえず、おむつと身の回りの物を持ち、主人が背負って、病院から病院をたずね、やっと入院を許されたのは、それから三日目

## 高齡化社会って何だろう

作 原 千 恵

の夕方。診断は脳こうそく、右半身マヒ、手術は不可能ということでした。

口からはいくらでも入るけれど下半身はおむつ。それも、辛うじて感覚が残っている左手で汚れたおむつを引きずり出して床に投げ捨てる。このすさまじい老いの道のりを、私はどう看とり、一緒に歩むことができるのだろうか。——とうとう三日間、私のほうが熱を出して寝こんでしまいました。

堀川病院の医師・三宅貴夫氏が、「呆け老人をかかえる家族の会」の調査をもとに語ったところによると、老人の介護者は九割が女性、しかも六十歳以上が三〇％。四六時中休みのない、見通しの暗い介護が女性に強いられるという事です。

政府の福祉予算の削減は、平和の中で人間の見殺しにつながります。脈うちながら動けない目の前の人間を、どうすればいいのでしょうか。経済的なものも含めて老人介護の現状と「あごら」を結ぶ具体的な接点を、どこに見いだしていけばいいのでしょうか。

私は、果然とたたずんでおります。

■新刊

編集・発売BOC



## 『沖繩・その自然』

石島芳郎著

自然の宝庫、沖繩を知ってほしい！  
一木一草への思いあふれる本ができました。沖繩に魅せられた自然科学者の「もうひとつの案内書」です。

カラー写真12点  
写真・図版83点  
B5変形判104頁  
定価1200円  
千250円

## あごら図書券をどうぞ！

卒業・就職祝、その他のプレゼントに……。

「あごら図書券」をつくりました。この図書券で、ご希望の号の『あごら』『あごらミニ』およびBOCの出版物を購入できます。『あごら』存続のために、ぜひご利用ください。1枚500円です。

あごら京都

&lt;座談会&gt;

## 今、男と女は

——白馬の王子と落馬したお姫さまのゆくえ——

阿部 ひろ江 (32歳)	竹 沢 悦 子 (38歳)
石川 美智子 (35歳)	塚 崎 美和子 (34歳)
稲垣 良代 (29歳)	平 田 ひと江 (33歳)
木野村 啓 子 (34歳)	

…82年11月収録…

## ★出会えない男と女

塚崎へ「あごら京都」で私たちは男と女の関係を繰り返し、繰り返し、話し合ってきたけれど、その辺のところ、今日は、へあごら京都へ五年の活動とからませて、話し合っていない?

稲垣 今の世の中、資本主義社会の大半のサラリーマン家庭の男と女は、離れ離れにならざるを得ないのじゃないかしら。

男の人も、サラリーマンとして働き出す前には仕事の中でやりたいこともあっただろうけれど、仕事をして行く中で、磨滅してきていくのじゃない? それと向き合っている妻が、夫と結びあって行くこととして「何を生み出していけるか」という絶望的な気持ちになる。何かを生み出そうとすれば時間が必要だけれど——私にはいっぱいある(笑)——彼のほうは、残業、残業で、深夜帰宅。そして寝るだけ。彼と結婚して、誰も知り合いのいない所へ来て、一日誰ともしやべらず、夜中に帰って来て寝るだけの夫を待つ暮らし。結婚当初、男と女の置かれた社会的な背景がわからず、暗い絶望的な思いを持つばかりだったわ。あごらが唯一の灯だった。

石川 男は職場、女が家庭という全く違う機能の場にいる者同士、二十四時間の積み重ねが違わねば、意識も違ってくるのがあたり前で、うまく出会えない。結婚前は、もつとふれ合えそうに思ってたけれど、私の場合も、時間の経過とともに、ギャップが大きくなった。

平田 私、夫と離婚すれば、ある面ではスッキリするのだけれど、どうもスッキリすること

で、大切なものを失ってしまう気がするの。彼と、スッタモンダを繰り返しながら暮らしているのは、やっぱり何かを彼との関係の中に求めているのだと思う。

堂々めぐりの消耗感が強くなった時には、もう彼との関係を止めたいと思うこともあったけれど、最近では、簡単に「離婚」を言いたくないと思う。それはひとつの逃げのような気がする。

自分から求めて、フルタイムで働き始めて丸三年の今、働く前に見えなかったことが、ひとつひとつ見えて来たわ。

稲垣 どんなこと?

平田 専業主婦でいた頃、彼との関係の中でモメていたことがスッキリしてきたわ。自分が働くことで、彼の働く状況、労働の現場が見えるようになってきて、「彼が悪い」とか「理解がない」という責め方ができなくなった。社会的制約の重さを感じるようになった。話し合ってもどうしようもなく、お互いに黙り込むしかないことが多い。

一体、どうすれば、それを乗り越えることができるのかというのを考えると、その分、絶望も深くなって来たように思う。

稲垣 女が働いていても、専業主婦であっても、男の人と向かいきれない状況、男と女が出会えない構造に私たちがいるというところ、とても共感できるわ。夫と私の二人の接点は子どもしかなくて、向かいあっても話すことがないと思った時、私、ショックだったもの。

## ★労働と男と女の関係は

塚崎 それは、二人の労働の場が違うという

ことに規定されていると思うけれど、どう? 同じ労働の場で、お互いに力を出し合い補い合う、つまり、労働を媒介にした男女のカップルこそ、エロスも朽ちなく燃えるというイメージが私にはあるのだけれど……。

今の状況の中では、そのような労働はごく限られている。経済的に女も自立して行けば、解放がcaちとれるかというところ、どうもそうとも言いきれない。男も女もちぎれて、キリキリと心を痛めているのが現状のようね。

阿部 労働を媒介にした関係って、とても大切だと思ったので、私も、同じ職場の彼と労働の場を共有し、運動も共にやりたいと思っていたの。でも、今の状況では、とてもむずかしい。

自分の生活のかんりの部分を注ぎ込んでいる労働の場だからこそ、彼との関係を重ね合わせていきたくった。でも、周囲にカップルを大らかに受けとめる力がなくて、結果的に、彼との関係がダメになってしまったの。職場が、カップルをはじき出すとするのね。具体的には、彼のほうが同じ職場でやって行くことにしんどさを感じるようになって、私に職場を替わるように言いだし、私がそれを受けたことで、彼との関係がまづなくなった。

石川 たいいてい、同じ職場で働いていても結婚した二人は、配置転換される仕組みになっているのでは? 阿部さんの場合は、結婚していなかったことが、逆に作用しているのかしら?

塚崎 結婚している、いないにかかわらず、男と女のエロスが、権力に立ち向かうものとしてあるから、分断されるのだと思う。だからこそ、私たちの側は、常に創るうとする。性は権力を排除する要素をもっているから。

阿部 実際、労働を媒介にした男女の関係は一プラス一マイナスというふうなものではなく、もっと大きな力になるから、管理する側にとって恐ろしいのだと思うわ。

塚崎 職場というのは、個としてバラバラな形で、労働を売り、お金をもらおうというシステムで成り立っている。現代は、女も男も、誰とも手を結び合わないで「個」として労働することが求められる時代なのだと思う。第一次産業の壊滅状態と第三次産業の肥大化の中で、誰もがバラバラに孤立化してゆき、私たちはその疎外感に呻めいているのではないかしら。

労働の質の変化とともに、男と女の関係性も変わってきているのではないか。これから分断された労働に加えて、人間を排除した機械相手の労働も増えていくだろうと思うと、暗い気持ちになるわね。

阿部 人と人のかかわりの中で、労働の質というのは大きなことだと思う。人間としてやりたいことを労働としてやっているのではなく、商品として、労働力を売り渡しているというふうな気がする。

竹沢 確かに人間の心と体が叫んでいることと、労働の場の有り様は、全く違っているわ。でも、歯車が回っている以上、それを止めることもできないし、やりがいいまたその中にあるというのも事実よね。

男と女という関係では、離反もいいところ、ギンギン音をたてながらやっている。

今、障害児を抱えながら働いているけど、想像を絶する厳しさよ。一言で言えば、子育てと、男が作った労働の場での仕事は両立しないということだと思ふ。子持ちで働く女への痛烈な冷たい周囲の眼を感じているから、

その眼を変えていこうと頑張っているところよ。

### ★仕事なら何でもやる男は家事をする？

稲垣 私たちは何を試みたらいいか、今の暮らし方をどう考えているのか、出してみて。石川さん、柳川ではどうだった？

石川 彼と別居して、柳川の柳下村塾へ娘二人と私で行ったあと、一年くらいして、彼も仕事をやめて私たちと合流したの。食べ物運動(生協)と一緒にかわって、あそこでは台所なんかも、彼、ものすごく一生懸命「仕事」としてやるわけ。

稲垣 「仕事」という名目がつけば、男も家事をするわけね。

石川 そう。ものすごく、向こうの人には受けがよかった。私のほうが、だから悪妻というふうに見られていたと思う。こんないい人がいるのに、何で、別居して柳川へ来たのかと、そんな感じで、向こうの人が見ていたんじゃないかしら。

一同 おもしろいわね。男は「仕事」というと台所のこともやれるというところが……。石川 ところが、京都に帰ってきちゃうとそこはもう、ダメ。

★家を開く

塚崎 私は、家族の関係を組みかえたいと思つて、いろいろやってみたわ。あごらもそのひとつだし、家で、患者さんたちを招いて食事会をしたり、一緒に集会に行ったり、ミニコミ誌『越境』を出したり。二人で活動の

場を重ねたり、交流したりというところ。平田 木野村さんは？

木野村 私も、地域で何かやりたいと思つていたので「子供文庫」を開いたの。家を持って地域に暮らすようになってから、なんとか、地域に根づきたいと考えてね、「家を開く」を試みたの。

今のところ、彼は黙認という形よ。彼は子ども好きな人だね。日曜日なんか、近所の子どもたちを集めて、キャッチボールするようにな人だし、家事もよく手伝ってくれて、そんなことにあまり抵抗がないみたい。一同 うらやましいワッ。

### ★磨滅してゆく男たちの感性

阿部 木野村さんのところは違うみたいだけれど、一般に男の人って、「生活感覚」がすごく少ないと思うの。育ってきた環境とか、受けた教育にすごく影響されて、暮らしから離れたところにいることの不自然さに少しも気づかない。

平田 そうなのよね。

阿部 運動をやっている人でも、彼でもね、運動という点に関してもものすごく突き進んでいくのね。とにかく一生懸命。自分の体の健康を書してまでもやっていたのね。ところが、自分の生活というものがいないの。私から言わせれば。だから、彼と生活を重ね合わせようと思つても、その部分がないのよ。

平田 私は、働く前はパートしかないと、働きにくいとかのマイナス条件ばかり見ていたけれど、自分が求めて、働き続けようとしたら、何とかやってこれた。そして、働いて

みて感じたんだけど、今の働く現場というのは、自分自身が意識しないとか、感性が磨滅していくというか、鈍くなっていくのは確かだと思うのね。だから、男の人なんか、ずっとそれをやり続けてきているわけだから、感性も鈍くなっていて、働くことに大部分精力使ったとしても、疑問に思わないのね。

私だったら、「家庭って何だろう」とか、「子どもとの関係ってどういことだろう」、「夫との関係は」って思うじゃない？ 私が面白くない顔していたり、イライラしていたりとか、問題をつきつたりして、初めて「ハッ」「グサッ」という感じで、彼は考え出すんだけど……。石川 でも、本当に自分のこととして切実に感じて、生活の問題を考えてはくれないわ。そういう話になると全然ダメというか、欠落しているというか……。稲垣 私のところは、私がずっと専業主婦で、男女分業そのまの生活よ。でもねえ、男の人みたいに、何か、仕事だけに集中でき、仕事だけをひたすらやれるというのは、「いいなあ」と思うことがあるわ。

阿部 私、今の時点で考えても、男の人が家庭のこととか、子どものこととかを考えずに仕事ができるということが、うらやましいこととは思えないの。職場では、男の人は精一杯、仕事ができる。仕事ができる面であらやましいとは思われないけど、その人の生活の背景は、何やら、と考えた時にね、自分の生活の基盤もなしにね、全部、奥さんに家のこと、子どものことをまかせておいて、どんな偉そうなことを言っても信頼できない、という感じがしてしまふのね。



石川 裏が見えているものね。

阿部 だから、子どもがいてやっていくというの、しんどいんだけれど、両方ともやりたいというか、両方ともやれる自分のほうが幸福なんじゃないかと思ってしまうのね。

竹沢 それはあるね。男から仕事をとってしまえば何もない人、多いね。

稲垣 私が男の人がうらやましいと言っているのは、かなり複雑な気持ちだめられているのよ。外で働く男の人って、その時は輝いているって気がするの。輝く場があることに對してね、「いいなあ」と思うの。

家に帰って来る夫は、もう疲れ果てて、グッタリって感じでしょ。そんな夫の姿ばかりに接していると、男の人って、あんまり大したことないなあなんて思ってしまう……。

平田 家にだけいると、自分のだんなに對して、ステキだと思わなくなってくるものね。稲垣 でも、やっぱり、外で働く男の人を見ると「あつ、いいなあ」と思うわけよ。

一同 ウッフ…… (笑)

阿部 ほんとうに、出合える場がないんよな。

石川 私、柳川で半年間、夫と共に働いたでしょ。それまで京都では、ヨレヨレになって家に帰って来る姿ばかり見ていて、いつもガツカリしたところがあるの。

けれど、柳川では「ハーハー」と思う時もあったわ(笑)。結構、いいこと言うなあと思ってるね。

塚崎 カップルでひとつの労働に携わると、お互いの息遣いまで感受できるものね。

石川 でも、彼のほうが意識しすぎてね。何か気取って、全然話さなかったり……。慣れないと、なかなか、むずかしかったわ。

### ★開かれた関係性を

竹沢 男性というのは、女房に同じところにいてはほしくないみたいのもあるでしょう。

平田 二人が二人だけで閉じていたら、おそらく自滅していくと思うわ。四六時中二人でいて、息苦しくなるんじゃない? 閉じないで開かれた関係性を創らなければ……。

仕事も生活も全く一緒では、開かれるところがなかったら、もろにぶつかりあうんどうかしら?

塚崎 子どもたちが通っている幼稚園の園長先生夫妻がね、協力し、補い合って幼稚園を経営しているというのが伝わってきてね、いつも、ああ、いいカップルだなあと思っていたの。仕事と生活の一致の上に志の一致みたいな感じがされるのよ。

稲垣 自営とか自由業というのは、可能なのね、そうしたことが、ある程度は。でも男女分業のサラリーマン家庭では、やっぱり男は帰って来て、家事やりたくないというのが本音でしょうね。

竹沢 私、帰るのが夫より一時間遅いの。「メシ」という気持ちよくわかるわ。

平田 「お茶!」と言いたくなるね。

稲垣 だから、正面切って「家事を分担して」って専業主婦は言えないのね。自己規制が働いてる。

### ★私の心が

#### 泣き叫んでいる

塚崎 でもね、私なんかも、ずっとそんな風にやってきたでしょう。その結果、母子家庭

のような暮らしになって、考え込んだわ。その頃、彼はね「自分の心が泣き叫んでいるから妻のことなんか、かまっていられない」って言っていたの。毎日、会議、学習会、仕事だと深夜帰宅。日曜日は患者さんを連れてハイキングなんかへ行ってしまおう……。私は、彼の活動を全面的に支持していたけれど、心が暗れない。

二年前、(あごら)の運営委員になった時、何度か東京へ朝から行かなければならなかったでしょう、最初、彼は家にいて子守りをしなければならぬので「不愉快だ」と言ったのよ。私は、その時「あなたはかつて心が泣いていたと言って、私たち母子を置き去りにした。今、私の心が泣き叫んでいるの。あなた、どうしてくれるの!」って迫ったの。したら、一分くらい黙っていて「わかった。行ってこい」って。それから私が運営委員会で家をあげる時は、何も言わずに子どもたちを連れて会議に出たり、お風呂を沸かして、私の帰りを待っていたりしてくれるようになった。

専業主婦だからというかたちで自己規制ばかりしていたら、どこにも出口がないと思うのね。やっぱり、突破したいと思った時、叫ぶというか。自己主張すべきなんじゃない。

稲垣 私もよく叫んでいるけどね……。石川 ある程度、融通がつく場合とつかない場合があるよ。うちは弱小企業だから、仕事仕事といっても彼が選べないし、とてもしんどいよ。

竹沢 さっき叫ぶって言ったけれど、女たちが叫ばない状況が永かったから、叫んでも、なかなか伝わらないところもあるよね。

平田 私たちの母親の世代なんか、大抵は叫

ばなかったじゃない? ちらっとぐちを言うくらいで。私たちの世代で、パフューと言いだしてきたという感じがする。

稲垣 でもこの世代で終わるんじゃない?

阿部 これで終わるんだらうか?

竹沢 永い閉ざされた女たちの陰うつさに私たちのおもしろいものがついているってこと、覚えておきたいわ。

塚崎 女たちが叫びだしたということは、ある意味では、生活が豊かになったということとを反映していると思うわ。リブがアメリカの中産階級の女たちによって始まったということが象徴的ね。

第三世界の女たちを収奪した結果、私たちの今の暮らしがあるということにも、自覚的であらう。

阿部 以前は、専業主婦でいられない状況があったわけね。みんな働いていた。

石川 歴史的に見て、結局、子どもを育てるための担い手ができたというのは、ものすごく大きな進歩なんだって。

塚崎 確かに物質的に豊かになってきたけれど、別の問題も生じてきているわ。物はあるけど、寂しさとか孤立感に悩まされているとか……。

阿部 豊かさは、物質的なものだけね。平田 ほんとうに、私たちはバラバラにされてしまったわね。

### ★白馬の王子と

#### 落馬したお姫さま

稲垣 男と女が向きあえない現状報告が相ついただけど、その辺を押さえて、これからのことも話してみない?

★暮らしと密着した運動を

塚崎 お姫さまが落馬したことに、気がつかない王子さまのほうが多いのじゃない？ 共に落馬しているんだったら、また二人で手を取り合って歩き出すということも可能よ。稲垣 とにかく落馬の傷の痛さを、ひきずってでも歩き出さなくては……。

ね。(一同笑)

阿部 王子さまも落馬してしまっているのじ

ばかりみつめて暮らし、女のほうが、危機を迎えるのだと思うわ。

稲垣 相手ばかりを見つめるんじゃないくて、自分がどう生きていくかという視点がなければ、相手との関係も破綻してしまふということね。自分の生き方を創っていくって、とてもむずかしいわね。自分がどう生きたいのか、自分自身ですらなかなかつかみとれなくて。私たちは落馬してしまったお姫さま

阿部 若い頃って、自分の生き方がまだ定かではないし、白馬の王子が現われて、別のこところへさらって行ってくれるって、皆、思うんじゃない？　そして、女は幸福になるといふ幻想があるでしょう。結婚がゴールであるという風に思い込まれているけれど、現実にはそこがスタートなのよね。

塚崎 男の人は、仕事をし続けることを前提に育てられているでしょう。でも女は、仕事をするかどうかは選択できるということになつていて、女の側に、生き方を問う姿勢が少なくて、女の頃から薄弱なので、ついつい、男のほう

いような気がして。今は棚上げ状態なの。

たくさんの障害者とかかわる中で、仕事とは何なのかを考え続けて、私は「経済的自立」と「仕事」をししばらく分けて考えたいと思うようになつてきた。障害者の民間作業場へボランティアで一年間はお通つたの。お菓子や袋詰めやシールを貼る仕事を一緒にやっていてね、能率や勤務時間を問わないで、その人のリズムに合わせた仕事の仕方をするのを見て、心打たれたわ。ここには人間の仕事があると思つたの。彼らは皆、経済的自立から程遠いところにいたけれど、人と人のつながりをとてども大事にしていたわ。

私がボランティアで働いたり、ミニコミ誌を出したりというのは、もちろん、夫の収入だけで生活がやってこれたということに支えられてのことだけれど……。

平田 頭がボロボロとして、新聞も読めないくらい精力を使い果たして、一日が終わることもあるけれど、私はなお働くことを選ぶわ。お金は簡単に得られない厳しい面があり、否が応でも鍛えられるということね。

方、金に水を加へて煮る。

石川　今は、毎日、稼がないと生計がたたないで、仕方なく働いているところもあつてしんどいけど、お金を稼ぐことの大変さは良ぐわかるようになった。気ままは許されず、イヤでもしなければならぬ部分もある。これまでお金ということをほとんど考えなかったけれど、そういう視点が入ってきたことが自分にはプラスだと思う。

木野村 週に一度、子供文庫を始めてから私自身も、働くことに對して、少しずつ考え方が変わってきたわ。保母の仕事は第二子の出産をきっかけにやめた時、どうして、こんな閉鎖的な生活を続けなければならないのか。

外へ出るほうがおもしろいと思ったの。

いまだ週一回、大人と子どもあわせて二十三十人の人が家に来るようになって、子育ての情報交換をしていたり、子どもの教育について話し合ったりしていると、ここで生まれた人と人のつながりが何よりも貴重に思われて、これを捨てて、フルタイムで働きたいと、という気持ちで薄れてしまった。「新しい家庭医科We」の八・九月号で、田村美佐子さん（あこらの会員）が障害児出産をきっかけにお仕事をやめられたことが載っていたけれど、私、共感したわ。八時間働くという働き方そのもののへの疑問も生じてきたし……。

今のところ、「子供文庫」で出会っているお母さん方が、どの方向を向いているのか、まだ充分にわからないけれど、「家を聞く」ということを継続して考えたい。

阿部 暮らしと密着した運動を創っていく  
てことね。今度、私も障害者の援助グルー  
プのメンバーと共同生活を始める予定。  
塚崎 私は、ここ二年ほど「売春観光を考  
える会」にもかかわってきた中で、第三世界

三身の

人たちのこともよく視野に入ってきたわ。豊かさとは何かとか貧しさの中の創造性

## △編集後記△

へあごろ京都の五年——ゆるやかな歩み。一致し、高揚する活動はなかったし、向かふ実を結んだわけでもない。でも、集まつた女たち一人ひとりにとって、この五年は、ずつしりと重い。誰も代弁してくれないし、させてもいけない。自らの生を、みづから、語り合う中で、私たちは共感し合い、刺激を受けてきた。他者の生き様、暮らした様子、深く学ばせてもらうこともできた。そして、自分なりに歩いて来た。そのついでに、あの人、この人の試行錯誤を、私たちの共通財産としてあたため合いながら、明日を展望していけたら……と思う。

(H)

 $\hat{H}$ 

について考えたりってところ……。

平田　そういう視点をもつてくると、今の自分たちのうつうつとした状況が開けていくのかかもしれないね。優生保護法改悪の問題も、本当に身近な自分の問題だと思っているのね。ただけど、今、働きながらその日をがむしゃらに過ごしてはくなく、心にひっかりながら、運動してはくなくやれないでいる。石川　私も「使い捨て時代を考える会」に入っているけれど、いろんな催しものに自分がかかわっていいこうとすると、実際、家にないといけないという現実がぶつかる。——

仕事をしながらだと、日曜日とか土曜日の

午後しかかわれないけれど、そういう形でも、細々と続けていったら、今はできないにしても、いろいろ刺激も受けるし、いいんじゃないかと思つてやっている。

塚崎 自分の場で運動をうみ出して行くようにしたいわね。ああごろVもささやかながらそういう場でありたいと思う。

一同 その辺が、私たちああごろ京都Vの五年の歩みの到達点というところね。

左の左の至遠点といふところを

(まとめ 塚崎美和子)

# 優生保護法改「正」案、国会上程は3月か

## 3月13日、東京で阻止全国集会を！

自民党の女性国會議員6名が揃って反対に立ち上がるなど、自民党内でも足並みは不揃い。近づく選挙を前に、女性票のゆくえを考えると、国会上程は見送られるのではないかと、国会関係者も考え、厚生省も、医師会との関係を考えればホッネは上程に積極的ではないようですが、何といても生長の家の票は大きく、一応上程はしなければ引込みがつかないのではないかと、というのが、消息筋の読みです。

林厚生大臣は、1月17日、地元山口での記者会見で、「国民的コンセンサスを得て国会上程する」旨を、再度明言しました。3月が、国会攻防の第一の山となる見込みです。

再開国会は重要案件が目白押し。上程しても、決議に至るかどうかは疑問ですが、ここでいまま一番重要なのは、「国民的コンセンサス」の証明として、いま各地で展開されている改「正」推進署名運動です。「いまの少女非行をこのまま放置しては大変な問題になる」「タガがゆるみすぎているのを正さなくては」といった話し方をすれば、善男善女はすなおに賛成する。まして、署名運動の音頭をとっているのは地元有力者たちですから、署名数は、今や阻止署名の300倍にも達しています。仮に国会で決議されないとしても、改「正」運動を通じて行なわれる洗脳の影響は、はかりきれないものがあります。

しかし残念なことに、優生保護法などといった、一般の人にはほとんどピンとこない状況です。中絶といえは、やっとわかってもらえても、「自分とは関係ない」と思っている人が大部分というのが現実です。

この問題の背景にある「優生思想」を徹底的に洗い出し、わかりやすい形で問題点を示していくことが私たちの急務ではないでしょうか。〈あごろ〉は、各地の阻止運動連絡会に加わる一方、独自の学習会も重ね、「人間」や「生命」そのものから問い直しつつ、問題の本質を考えていこうとしています。

### 東京では

## 連続3回の学習会

連絡会では、次のようなスケジュールで学習会を重ね、3月13日、全国集会を開いて、阻止に総力を傾ける予定です。

①1月28日(金) 6時半～9時

於 渋谷勤労福祉会館

②2月4日(金) 6時～9時

於 総評会館

「生命論」をめぐる

DNA研究家、消費者連盟の人などを招いて

③2月17日(木) 6時

於 渋谷勤労福祉会館

「女たちよ！ 前進しよう！」

米、仏、伊、西独、スウェーデンなどの報告を聞いて考える

3月13日(日)、東京で再び全国集会を開き、大キャンペーンを展開します。

### 48団体、婦民など、

### 各婦人団体も一斉に立ち上がる

48団体は、1月27日(木)午後1時から5時、衆議院議員会館で、各政党を招きこの問題についてのホッネを聞きだします。

また、婦民は1月30日(日)午後1時から千駄ヶ谷区民会館で、丹あや子さん(元婦人相談員、吉原・山谷地区担当)の「墮胎罪」、谷合規子さん(婦民新聞記者)の「主婦と中絶」の報告を学習、4時から街頭デモに出ます。

婦人問題懇話会では、1月21日(金)6時半から「中絶是非の思想」を学習。

また山口の連絡会では、2月27日(日)宮淑子さんを招いて集会をもつなど、各地でも軒なみ集会が持たれる予定です。

## 〈あごろ〉も独自の学習会

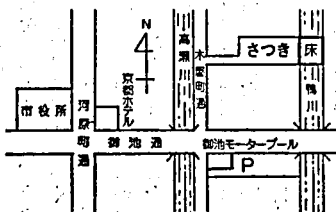
改「正」阻止の先頭に立って活動している九州・京都・札幌・武蔵野はじめ、各地点での学習が目立ちますが、東京では特に「優生思想」に重点を置いて学習会を重ねます。

第1回は2月10日(木)6時半から、これまでの報告とオリエンテーション。また2月25日(金)には、婦人問題懇話会女性史部会と共催で「優生保護法と優生思想」(発表、斎藤千代さん)を午後6時半から開きます。

会場はいずれも「あごろ読書室」です。

## 高瀬川のほとりで京の味を

# もつさ



大文字を望む 旧大村益次郎邸。  
夏には京名物の床(ゆか)も……。  
川瀬の音を聞きながら、京料理を  
おたのしみください。

〈あごろ京都〉 柴田 列子 電話 075-241-0085

女を直撃する問題であると同時に、男女すべて、人間の根底にかかわる問題として、障害者問題もふまえながら、深いレベルで考え、安易な改「正」を阻止していきたいでしょう。

### 胎児が人間として認められるのは

#### 24週目から(国連の規定)

1月18日に行なわれた改「正」阻止連絡会にはヤンソン由実子さんも出席、スウェーデンの事情などを話されました。

スウェーデンでは、何よりも、学校教育での性教育の徹底、避妊の指導と器材等の援助に重点を置き、「望まない妊娠」を回避することを第一にしているが、最後の手段として中絶ももちろん認められている。胎児は22週以後、「人間の胎児」として認められるが、

国連の規定では24週以降となっていること、などが報告されました。さらにくわしい話は2月17日の第3回学習会で諸外国の事例とともに発表されます。

### 27号にさつそく反響

◆「いま平和を支える」を共感と感動で読み終えました。そして、新しい年をまた平和を紡ぎ出す行動の年にしなければ、と決意いたしました。『女と戦争』の感動を、昨年暮れの「12・5戦争への道を許さない女たちの集会」(下関・43人参加)へと結ぶことが(やっとの思いで)できましたが、またこの本を栄養にしたいだけの努力をしたかと思えます。

◆暮れに届いた『あごろ』は、とてもずっし

## 5月27、28、29日 国立教育会館で 国際フェミニスト交流会

在日外国人がふえるにつれ、在日フェミニストも急増、IFJ(インタナショナル・フェミニスト・オブ・ジャパン)もできるなど国際交流が活発になっていますが、英語ができない日本人と日本語を話せない外人との間には、依然として厚い壁があります。

各国の情報を交換し、より一層国際連帯を深めようと、可能性教室英語水曜クラスの講師バーバラ・イエーツさんが、国際フェミニスト交流会(仮称)を企画しています。バーバラさんをサポートして、会を成功させたいと思います。この企画に関心のある方はあごろ事務局までぜひご連絡ください。プロジェクト・チームを組んで推進しましょう。

現在のところ、◆女と戦争◆各国の中絶自由化の経過◆女子労働◆女と法律など、小さな分科会をいくつか設け、日英両国語のできる外国人と日本人が各分科会にそれぞれ1人ずつついて通訳し、英語のできない日本人も参加できるようにする。◆参加費は3千円程度(宿泊費・食費は別に1日約2千円)。◆土曜日の午後は全体会とする。◆ヨガ・座禅・ダンス等の時間も設ける、などが計画されていますが、企画がありましたら、どしどしお申し出ください。第1回の打ち合わせは、2月2日(水)正午11時、あごろ読書室で行なう予定です。参加ご希望の方には、次回以降のご案内をさしあげます。

降のご案内をさしあげます。

り伝わってききました。とても大変な思いと努力で作ってくださったのだと思います。動きださなくては……。(京都市 石川美智子)

◆「沖縄タイムス」の記事はショックでした。あのような真相が日本のマスコミには報道されていらないですね。「マスコミが風化した」という説を改めて認識しました。

(東京都 田代 信子)

◆8・15集会の記録がたいへん興味深かった。どの人の発言にも感銘を受けましたし、右翼の妨害など、リアルにわかりました。地方にいと東京の状況がわからないので、今後とも集会報告に期待します。

(山口県 今橋 明)

◆今号も、どの記事も深く心を打たれるものは、その問いが重く残ります。いつもいくつかの口実のもとに行動がともなえない自分を恥じていますが、いつか近いうちに、たくわえた知識を行動の中で武器として使えるはずだと自身は考えています。『あごろ』の読み手としての受け身な形から、必ずいつか働き手になるつもりです。心に届くメッセージを送り続けてください。(東京都 上野真城子)

#### 1月の会費・基金受入状況(27日まで)

◆82年度分	26人	6万8000円
◆83年度分	160人	93万9000円
◆84年度分	5人	1万5000円
◆基金	31人	10万1000円

#### 【事務局から】

1月号「ミニ」が大幅に遅れたことをお詫びします。少しでも経費を安く、裏目に出ました。それにつけても会費の納入が何より助かります。どうぞよろしく願います。

## 古都散策の折には、是非きておくれやす

- ・ささやかな店ですが、芸術や文学を愛する人々が訪れ、落ちついた雰囲気です。お1人でもどうぞ。
- ・毎月第2水曜日(午後1時半～4時)当店で女性のための勉強会「グループ 金木犀」を開催しております。近郊の方はどうぞ。現在会員は40名。



和風すなっく

乙女茶屋

京・河原町4条上ル一筋目東入  
電話 (075) 223-0005

〈あごろ京都〉 合田京子 電話 075-571-7645



## 〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
2月4日(金)	18:30~20:30	練馬市民大学「ロッキード裁判のゆくえ」立花隆	連絡先 03-991-7095	サンライフ練馬(西武池袋線中村橋)	
	18:00~21:00	優生保護法学習会②「生命論について」連絡先 03-269-6595		総評会館	
	18:30~20:30	「女が働くとき」藤原房子 連絡先 03-341-0801		新宿区立婦人情報センター	
5日(土)	13:00~18:00	婦人の行動を広げる会学習会「私たちの暮らしと軍縮問題」宮崎勇		全国婦人会館 連絡先 03-407-4301	
6日(日)	13:00~15:30	'83女の時代とパートタイマー 樋口恵子、中島通子、河野貴代美		日本教育会館 1000円	
7日(月)	11:00~	あごろ新宿例会 27号「いま平和を支える」を読んで		あごろ読書室 03-354-9014	
8日(火)	18:30~20:30	「自立の心理学」学習会 しま・ようこ		あごろ読書室	
10日(木)	10:00~12:00	「平和と女性の生き方」北沢洋子		荏原文化センター 03-785-1241	
	13:30~15:30	「あしたの女性を考える」米田佐代子		新宿区立婦人情報センター	
	18:30~20:30	あごろ28号学習会 「いのちを守る」		あごろ読書室	
11日(金)	14:00~	あごろ京王例会		調布市婦人会館	
12日(土)	14:00~16:00	婦人のための法律講座④「働く婦人と年金」大野明子		婦人会館 03-370-0238	
13日(日)	11:00~19:00	83年第1回あごろ運営会議		あごろ読書室	
	14:00~17:00	あごろ九州例会		福岡市立婦人会館	
	18:30~21:00	あごろ札幌例会		喫茶のあ 011-511-1377	
15日(火)	18:30~20:00	「ユング心理学と女性の解放」③ 秋山達子		婦人会館	
16日(水)	13:30~15:30	「あなたの明日を誰が看る」武田京子 連絡先 03-341-0801		新宿区立婦人情報センター	
17日(木)	18:00~	優生保護法学習会③「女たちよ! 前進しよう!」ヤンソン由美子		渋谷勤労福祉会館	
18日(金)	18:30~21:00	83春期女大「従軍慰安婦にされた女たち」山口明子 五島昌子		同上 03-508-7070 五島(昼間のみ)	
19日(土)	14:00~16:00	練馬市民大学「倫理条例制定への堺市民の動き」長谷川俊英		サンライフ練馬	
	14:00~16:00	婦人のための法律講座⑤「働く婦人の権利について当面する課題」坂本福子		婦人会館	
	15:00~18:00	あごろ27号合評会		あごろ読書室	
19日、20日		「家庭と子どもと裁判所」家裁を考えるつどい		労音会館	
20日(日)	11:30~15:00	あごろ大阪例会		ジャンバラ	
	13:00~17:00	あごろ京都例会		新宿区立婦人情報センター	
22日(火)	13:30~15:30	「知っておきたい女性の法律」千葉清雄 連絡先 03-341-0801		あごろ読書室	
23日(水)	14:00~16:00	「女と老い」学習会 谷嘉代子著『女とり生きる』にみる婦人問題		名古屋婦人会館	
24日(木)	10:00~12:30	あごろ東海例会		あごろ読書室	
25日(金)	18:30~20:30	「優生保護法と優生思想」婦間懇女性史部会・あごろ共催		かわら版事務所	
26日(土)	19:00~20:00	あごろ武蔵野例会		福岡市立婦人会館	
	18:30~21:00	あごろ九州例会		浦和コミュニティセンター	
27日(日)	14:00~17:00	あごろ浦和例会		山口県小郡町農業共済会館	
	13:00~16:00	「優生保護法改正」を考える」宮淑子 連絡先0832-46-3181 森川		新宿区立婦人情報センター	
3月4日(金)	13:30~15:30	「あしたの健康を考える」石川恭三 連絡先 03-341-0801		婦人会館	
8日(火)	13:30~	「精神分析と家族」秋山達子		新宿区立婦人情報センター	
10日(木)	13:30~15:30	「充実した心で」田村敏子 連絡先 03-341-0801		あごろ読書室	
12日(土)	14:00~16:00	練馬市民大学「汚職の構造」室伏哲郎 03-991-7095		サンライフ練馬	
13日(日)	13:30~16:00	区民討論会「男の悩み・女の悩み」室俊司・吉武輝子 連絡先03-341-0801		新宿区立婦人情報センター	
	13:30~17:00	「優生保護法改正阻止」全国連絡会		代々木公園	
16日(水)	18:30~21:00	83春期女大「輸入される女たち」三好亜矢子・塚本由美		渋谷勤労福祉会館	

各地のあごら連絡先

**あこら旭川**

・旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子  
●寛0166Ⅱ65Ⅲ6237 〒078—11

**あこら札幌**

・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似  
408号 細田英理子  
●寛011Ⅱ644Ⅲ2927 〒0663

**あこら仙台**

・仙台南米庭字生出前4の65 三船照子  
●寛00222Ⅱ45Ⅲ5994 〒982102

**あこら浦和**

・浦和市南浦和2—19—8 山中マツ江  
●寛0488Ⅲ87Ⅳ3680 〒336

**あこら柏**

・柏市豊四季台3—1—68—212 古賀節子  
●寛0471Ⅲ45Ⅲ6724 〒277

**あこら北東京**

・豊島区東池袋1—45—11 マゾン金子202  
●寛003Ⅲ985Ⅲ33008 〒170  
婦人協同法律事務所 志賀由美子

**あこら武蔵野**

・小平市小川町1—763—86 丹羽雅代  
●寛0423Ⅲ43Ⅲ6749 〒187

**あこら京王**

・調布市仙川町3—12—32 福井浅子  
●寛003Ⅲ308Ⅲ7871 〒182

**あこら神奈川**

・川崎市多摩区東生田2—12—12 森山方沼田千恵子  
●寛0044Ⅲ933Ⅲ90079 〒214

**あこら東海**

・愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1—12—9 伊藤汎美  
●寛005613Ⅲ9Ⅲ2386 〒470—01

**あこら京都**

・京都市左京区一乗寺築田町56の1 塚崎美和子  
●寛0075Ⅲ791Ⅲ4623 〒606

**あこら大阪**

・茨木市西駅前町10—323 遠藤由美  
●寛00726Ⅲ23Ⅲ3495 〒567

**あこら九州**

・福岡市西区笹丘2—4—6 小島豊子  
●寛0092Ⅲ521Ⅲ7624 〒810